

高校公民プリント（過去問類似）

西洋の近現代思想 No.9

名前

得点

/10

問1 「最大多数の最大幸福」を唱えた思想家は、人間を快楽を求め苦痛を避ける利己的な存在と捉えた。彼は、個人の利己的な行為を規制し社会の秩序を維持するために、物理的、政治的（法律的）、道徳的、宗教的という四つの強制力が必要であると主張した。このような、個人の外部から加えられる強制力を何と呼ぶか。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 道徳的制裁 2. 内面的制裁 3. 外面的制裁 4. 物理的制裁

問2 人間の認識能力の限界と仕組みを明らかにするため、経験論と合理論を統合する立場から著された哲学書である。感性によって受け取られた素材を、悟性に備わる先天的（ア・プリオリ）な枠組みで構成することによって客観的な認識が成立すると主張し、のちのドイツ観念論に決定的な影響を与えた、1781年に刊行された主著は何か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. 純粋理性批判 2. 実践理性批判 3. 歴史哲学講義 4. 新人間知性論

問3 核兵器の登場による人類の破滅を回避するため、アインシュタインらとともに共同声明を発表し、科学者が社会的・平和的責任を果たすべきだと訴えた、著書『幸福論』などでも知られるイギリスの哲学者は誰か。（2016年 全国公立入試 類似）

1. サルトル 2. デューイ 3. ラッセル 4. アラン

問4 ヘーゲルは、個人の独立性と私的な欲望が追求される場であり、一方で貧富の差や対立が生じるため「喪失された人倫」とも呼ばれる、家族に次ぐ人倫の第二段階の共同体を何と呼んだか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 主観精神 2. 客観精神 3. 絶対精神 4. 市民社会

問5 「満足した豚であるよりは、不満足な人間である方がよく、満足した患者であるよりは、不満足なソクラテスである方がよい」と述べ、快楽には量的な違いだけでなく、精神的快楽のような質的な高低の差が存在することを主張して、先駆者の功利主義思想を修正・発展させたイギリスの哲学者は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. H. スпенサー 2. D. ヒューム 3. T. H. グリーン 4. J. S. ミル

問6 快楽を質的な差異のない量的なものとして捉え、客観的に計算可能であるとする思想において、道徳や立法の基準として掲げられた、社会全体の幸福のあり方を示す標語は何か。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 質的功利主義 2. 最大多数の最大幸福 3. 他者危害の原則 4. 最大幸福の原理

問7 功利主義が少数者の権利を犠牲にする可能性を批判し、自らの立場や能力がわからない「無知のヴェール」を被った状態での合意形成を構想した。そして、社会的・経済的な不平等が許容されるのは、最も恵まれない人々の状況を最大に改善する場合などに限られるとする正義の原理を唱えた、アメリカの哲学者は誰か。（2016年 全国公立入試 類似）

1. アレント 2. ロールズ 3. テイラー 4. サンドル

問8 実定法の正当性や善悪を判断する外部の批判的視点の一つであり、社会全体の幸福や効用を最大化することを法や制度の評価基準とする、18～19世紀のイギリスで発展した思想を何というか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 功利主義 2. 合理主義 3. 実用主義 4. 経験主義

問9 イギリスの哲学者ロックは、デカルトラが主張した生得観念を否定し、人間の心は生まれつき何も書き込まれていない状態であり、すべての知識は後天的な経験から得られると主張した。この「何も書き込まれていない状態」を指す、ラテン語に由来する哲学用語は何か。（2016年 全国公立入試 類似）

1. タブラ・ラサ 2. ア・プリオリ 3. ア・ポステリオリ 4. コギト・エルゴ・スム

問10 近代の理性が自然や人間を支配するための手段（道具的理性）に変質したことを批判したドイツの哲学者が、これに対抗するものとして提唱した、人々が対等な立場で自由に議論を交わし、共通の理解に基づいて合意を形成するために発揮されるべき相互理解を目指す理性を何と呼ぶか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 主観的理性 2. 対話的理性 3. 批判的理性 4. 道具的理性

答え合わせ・解説 No.9

問1	答え 3 外面的制裁	ベンサムは、個人の利己的な行為をコントロールするために、法律や世論、宗教的戒律などの外部からの強制力を重視した。これに対し、のちにJ.S.ミルは、同情や社会感情に基づく良心の呵責などの内面的制裁を重視した。
問2	答え 1 純粹理性批判	カントの三批判書の一つであり、人間の認識能力（理論理性）の限界を明らかにした著作である。感性と悟性の協働によって認識が成立する仕組みを説明し、従来の形而上学を批判的に再構成した。
問3	答え 3 ラッセル	バートランド・ラッセルは、論理学や認識論の分野で多大な業績を残したイギリスの哲学者であり、同時に平和運動家としても精力的に活動した。彼はアインシュタインらとともに核兵器廃絶と科学者の社会的責任を訴える宣言を発表し、科学技術の進歩が人類の生存を脅かすことへの強い危機感を示した。
問4	答え 4 市民社会	ヘーゲルは、人倫の第二段階として、個々人が自らの欲求を満たすために活動する場を市民社会と呼んだ。市民社会では、市場経済を通じて個人が独立して行動するが、貧富の格差や対立が生じるため、人倫の分裂・喪失の段階とされる。これがのちに国家において統合される。
問5	答え 4 J. S. ミル	ベンサムが提唱した、快楽をすべて数量的に計算可能とする量的功利主義に対し、快楽には量だけでなく質的な差異（精神的快楽の優位性など）があるとする質的功利主義を提唱した。これにより、単なる肉体的・物質的な快楽の追求にとどまらない、より高次の自己実現や個性の発展を重視する功利主義の立場を確立した。
問6	答え 2 最大多数の最大幸福	個人の快楽の総和が社会全体の幸福であると考え、より多くの人々により多くの幸福をもたらす行為を善とする基準として提示された。この思想では、快楽はすべて量的に換算可能であり、苦痛はそこから差し引かれるものとされた。
問7	答え 2 ロールズ	功利主義の「最大多数の最大幸福」が個人の尊厳や権利を脅かすことを批判し、公正な社会制度の基礎となる正義の原理を追究した。彼は、自らの属性を知らない「無知のヴェール」の仮定から、最も不遇な人々の便益を最大化する「格差原理」などが導き出されると主張した。
問8	答え 1 功利主義	法律や制度が適切であるかどうかを、単に既存のルールに従うこと（実定法主義）ではなく、それがもたらす結果としての幸福の量によって吟味する立場である。ベンサムは「最大多数の最大幸福」を掲げ、法や政治の改革を推進する基準としてこの思想を提示した。
問9	答え 1 タブラ・ラサ	ロックは主著『人間知性論』において、人間の心を「タブラ・ラサ（白紙）」に例え、あらゆる観念は感覚と内省という経験を通じて後天的に得られると説明した。これは経験論哲学の根本的な立場を示す象徴的な言葉である。
問10	答え 2 対話的理性	近代の理性が効率性や自己保存の手段となる「道具的理性」に陥ったのに対し、他者との対等なコミュニケーションを通じて合意形成を図るための理性が提唱された。これは、市民が自由に議論を行う「公共空間」を再建するための基盤とされる。